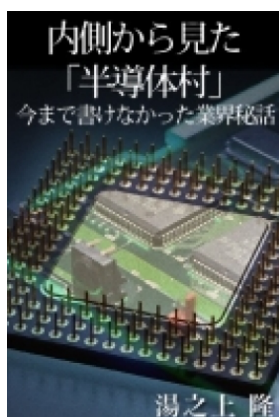


メールマガジン商品



## 内側から見た「半導体村」 今まで書けなかった業界秘話

湯之上隆

発行周期:月 2 回 隔週木曜日 JB デジタル選書



著者 Web サイト

<http://yunogami.net/>

発行サイト

<https://mall.ismedia.jp/>

**バックナンバー 2012年4月19日から2015年5月28日まで**

### 第5部 続・ベンチャーはつらいよ

Vol.62 ~ Vol.82 (2014年7月24日~2015年5月28日)

2011年3月11日、東日本大震災が起き、福島原発が爆発した。大学で原子核工学を専攻し、半導体技術者になった筆者にできることは何か？ 自問した結果、福島の子供たちを被爆から守る「たまごっち型放射線検知器」を開発するベンチャーを立ち上げることになった。そのエンジェルは、何と、“マッチ” こと「近藤真彦」になった！

### 第4部 ベンチャーはつらいよ

Vol.39 ~ Vol.61 (2013年8月20日~2014年7月10日)

同志社大学を任期満了で退職した筆者は、ウエハリサイクルのベンチャーを立ち上げた。既存技術では3回程度しかリサイクルできなかった使用済みウエハを、200回以上再生可能にする技術を開発し、あと一歩でインテルに売込む所まで迫った。そんな矢先、リーマン・ショックが起きた。そして、資金援助をしてくれていた会社が傾いたため、無職無給に陥った。

### 第 3 部 Road to University

Vol.22 ~ Vol.38 (2012 年 11 月 22 日~2013 年 7 月 25 日)

日立から早期退職を勧告された筆者は、同志社大学に新設された経営学の専任フェロー（現在の特任教授）になった（経営学の“け”の字も知らないにもかかわらず）。最初に取り上げたテーマはエルピーダの研究。坂本社長（当時）に仁義を切り、エルピーダを調査した結果、「過剰技術で過剰品質をつくっている病気」を突き止めた。ところが、エルピーダからは「あいつは何者だ？」と睨まれ、「研究は中止、エルピーダへの出入り禁止」を言い渡された。同志社大学にも知れ渡り、それが原因で「明日から来ないでくれ」と退職勧告を受けたが、約 5 年の契約書をたてに、同志社大学に居座り、世界一周調査旅行を敢行するなど、奮闘を繰り返した。

### 第 2 部 プラチナエッチングをめぐる怪しい人々

Vol.12 ~ Vol.21 (2012 年 6 月 21 日~11 月 1 日)

日立中研から半導体事業部の武蔵工場に左遷され、強誘電体メモリ FRAM 開発プロジェクトに関わり、不可能と言われた Pt エッチングを成功させた。しかし、工場の技術者、上司、現場の作業員と大バトルを展開する羽目に。

### 第 1 部 志願したエルピーダをたった 1 年で去ったわけ

Vol.01 ~ Vol.11 (2012 年 4 月 19 日~6 月 7 日)

たった 1 人出向を志願したエルピーダで、NEC との大バトルに敗れ、ドライエッチング Gr の課長降格を言い渡された。窓際族となった筆者は、日立に出向解除を申し出たが、本社への復帰は敵わず、セリートへの出向を命じられた。